

歳入のPOINT

- ・基金繰入金の増加等で自主財源は 8.2%増
- ・町債等の減少で依存財源は 0.1%減

歳入全体における自主財源は、前年度が骨格予算であったことなどから、財政調整基金繰入金等が増加したことで、前年度比5億 9,387万円、8.2%増の77億 9,612万円を計上しています。また、依存財源は、地方消費税交付金の増加等のほか、建設事業関連の町債の減少等により、前年度比387万円、0.1%減の56億 6,388万円を計上しています。歳入全体に占める、それぞれの割合は、自主財源が57.9%、依存財源が42.1%となりました。

歳出のPOINT

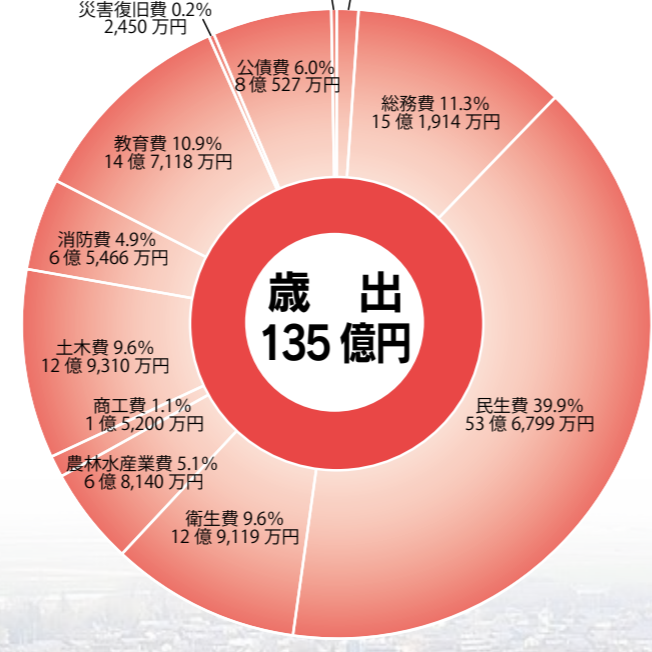
- ・義務的経費の増加等で予算総額 4.6%増
- ・学校改造事業の終了で投資的経費は 21.4%減

義務的経費は62億 9,348万円となり、会計年度任用職員制度の施行に伴う人件費、障がい者施策等に要する扶助費の増加などにより前年度比10億 940万円、19.1%増と大きく伸びています。

投資的経費は、菰野保育園および菰野西保育園舎増改築事業等の事業費を計上する一方で、小学校および中学校の大規模改造事業の終了により、前年度比4億 724万円、21.4%減の14億 9,264万円を計上しています。

その他の経費は、地域公共交通確保改善事業補助金等の補助費や、介護保険および後期高齢者医療特別会計に対する繰入金で増加し、物件費でも中学校給食調理等業務委託やコミュニティバス運行等業務委託で増加しましたが、会計年度任用職員制度の施行が大きく影響して、前年度比1,216万円、0.2%減の56億 7,388万円を計上しています。

一般会計 歳出



会計	予算規模	前年度との比較
一般会計	134億 6,000万円	4.6%増
特別会計	国民健康保険 37億 3,000万円	1.8%減
	土地取得 52万円	92.6%減
	介護保険 36億 3,500万円	6.4%増
	後期高齢者医療 9億円	9.8%増
企業会計	水道事業 12億 1,319万円	5.7%減
	下水道事業 31億 984万円	0.6%減
予算総額	260億 4,856万円	2.9%増

※四捨五入の関係で合計額等が合わない場合があります。

総額 ▶▶▶ 260億 4,856万円
一般会計 ▶▶▶ 135億 1,914万円

令和2年度 当初予算

当 初予算として、総額約260億円を3月の菰野町議会定例会に提案しました。一般会計の予算は約135億円で、前年度の予算と比較して4.6%の増となりました。今月号では一般会計予算について、柴田町長が議会で行った提案説明とともに主要な事業等をご紹介します。

令和2年度の予算は第5次菰野町総合計画との整合を図りつつ、住民の思いを尊重し、もっと住みよいまちを具現化する施策をさらに展開するために編成を行いました。具体的には、町民の安全安心の確保、子育て支援の充実、利便性の向上に向けての施策や事業に重点的に取り組むことで、もっと住みよいまちづくりにつなげてまいります。

提案説明

問題を取り切るための「選択」と「集中」

利便性の向上という観点からは、公共交通の整備・充実を図ることとしました。今年度はバスを1台増やしてさらなる増便を図るとともに、のりあいタクシーの運行エリアを拡大し、バスとタクシーを連携させることで交通手段を充実させます。また、毎日欠かさず使用する水道も、5月請求分から基本水量制を導入して一般家庭の負担を軽減し、安心して水道を使用できるようにします。

このように就任から取り組んでまいりました子育て支援と福祉の充実、利便性の向上に関する施策の実施により、もっと住みよいまちづくりが前進していることを町民の皆さんも身近に実感していただいているのではないかと考えております。一方で、以前から人口減少と人口オーナス期に起因する、いわゆる2025年問題や2040年問題として指摘されてきた構造上の原因か

ら、社会保障費等の増加による財政状況への影響が指摘されてきましたが、現在の菰野町ではその問題がますます顕在化しつつあります。この問題を取り切るキーワードとしてよく「選択」と「集中」との言葉が使われます。私はこの「選択」と「集中」の姿勢を単なる掛け声に終わらせず、町民の思いを実現すると同時に、健全で持続可能な財政運営にも努めてまいります。

まず、住民の安全安心の確保という観点では、今後高い確率で発生が懸念される南海トラフ地震や異常気象がもたらす風水害など、いつ誰が被害に遭ってもおかしくない状況であり、有事に備える必要があります。そのため、令和2年度に町内河川に監視カメラを設置し、指定避難所にはマンホールトイレを整備するなど、ハード面での強化を図ること

